

2 リスクマネジメント

(1) スポーツ活動における事故や怪我（以下「リスク」という）の基本的な考え方

スポーツとはリスクが付きものなので、そのリスクがあるスポーツに参加する者は、原則、そのリスクを承諾して参加している＝「スポーツに内在する危険、危険の承諾」だからこそスポーツ活動中のリスクは、競技規則に則った上で発生してしまったものに関しては、原則、自己責任と考えられるのです。但し、体格的な差、経験的な差等、明らかにリスクが発生する可能性がある場合にはこの限りではありません。

(2) 指導者の安全配慮義務

スポーツ指導者には参加者の安全に配慮する義務があります。これをスポーツ指導者の安全配慮義務といいます。この安全配慮義務とは参加者の年齢やリスクが発生した状況等を全て考慮した上で、指導者の安全配慮義務が果たされていたかどうか？が問われることになります。

(3) 予見可能性、回避可能性

そのリスクに予見可能性があったかどうか？回避可能性があったかどうか？がその責任の所在を決めるポイントとなります。

予見可能性・・・そのリスクを予見できたかどうか？

回避可能性・・・そのリスクを回避することができたかどうか？

最終的に予見可能性や回避可能性、その他全ての状況を考慮し、指導者の責任が問われることになります。

(4) その他、求められる安全配慮義務

ア. 健康への安全配慮義務

参加者各人の健康に対しての十分な配慮が指導者には求められます。既病歴や当日の健康状態を把握することはもちろんのこと、指導中の熱中症等には十分注意して、水分補給、休憩、スケジュールの再調整等、参加者各人の健康状態への配慮が求められます。

イ. 天災に関する安全配慮義務

雨、風、雷のような天災に関しても指導者には適切な対応が求められます。天災に関する常識的な知識は常に持ち合わせていなければならず、日々の勉強は欠かせません。

ウ. ボランティア指導者の責任

ボランティア指導者が起こしてしまった責任に関しても、安全配慮義務、状況等、全てを考慮してその責任が問われることになります。ボランティアだからといって、その責任が全て免れることではありません。

エ. 免責同意書

「当クラブで起きた事故や怪我の責任は一切負いません」という文言のみでは、法律的なリスクマネジメントにはなりません。一方的に参加者の不利益を指導側が免除しているような条項は、消費者契約法もしくは民法により無効とされることがあります。このような状況においてもしっかりと安全配慮義務を果たすこと

が必要となります。

オ. 施設の安全配慮義務

施設の管理者は、その施設の不備等によりリスクが発生した場合、その施設の「通常有すべき安全性」が保たれているかどうかはその責任の所在を決めるポイントとなります。その他全ての状況を考慮し、その責任の有無を決定します。

(5) スポーツ指導者の確認事項

- ア. 事前に行うスポーツのリスクや注意事項を説明しましたか？
- イ. その指導計画は適当ですか？
- ウ. 体格や経験等の差など、参加者各人の実力、レベルは適当ですか？
- エ. 既病歴がある人はいませんか？健康状態は？天候は？
- オ. 緊急体制は整っていますか？AEDの用意はありますか？救急箱の準備は？

(6) スポーツリスクと法的責任

スポーツリスクに関してその責任が問われる場合、不法行為責任、使用者責任、債務不履行責任、国家賠償責任等が問われます。クラブや学校は、現場の指導者個人が勝手にしてしまったことで済ませるのではなく、一緒になってリスクを起こさせない環境づくりを推進していく必要があります。

(7) 保険の加入

スポーツリスクの責任をカバーするために保険の加入は必須です。スポーツ保険に関しては、主に傷害保険と賠償責任保険の2通りがあります。傷害保険とは、そのリスクに対するお見舞い金的なものであり、賠償責任保険とは、指導者等が起こしてしまったリスクに対しての損害賠償責任に関してカバーしてくれる保険です。重要なことは、その保険内容を十分検討し、適切な補償内容の保険を選択することが求められます。

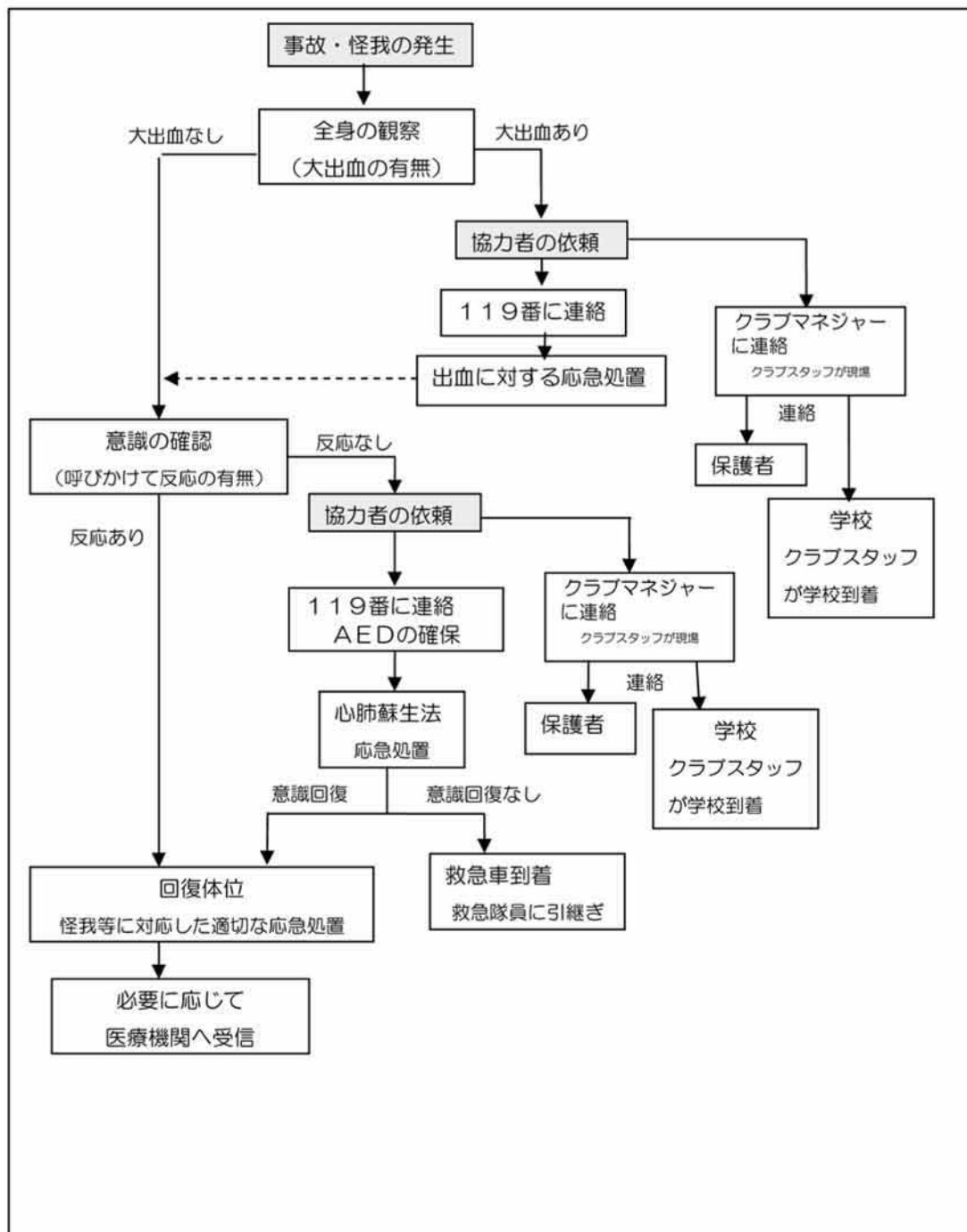
(8) スポーツリスクのリスクマネジメント

スポーツリスクにおいてトラブルとなる原因の多くは、決してリスクの大小だけではなく、リスク後の対応いかんであることが多いようです。そもそもスポーツリスクは原則自己責任です。リスクの大小にかかわらず、そのリスクがトラブルとならなければ（自己責任）いいのです。そのために指導者は、しっかりと会員、保護者双方とコミュニケーションをはかり、スポーツ指導への理解を求めていくことが重要なカギとなります。

スポーツリスクのリスクマネジメントとは、日々の信頼関係の構築、この積み重ねが一番のリスクマネジメントです。

事故発生時の対応

心配停止後、4 分で 50% 5 分で 25%の蘇生率。時間がカギを握る。



＜参考文献＞ 文部科学省委託事業 地域スポーツ指導者育成推進事業
ハンドブック「地域スポーツ指導者へのステップ」 より引用

